

西暦2021年6月4日

当院で治療後に自宅退院し、訪問看護を利用する患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療または過去に実施した研究及び治療で得られた試料及び情報（以下、臨床情報という。）を用いて行います。

この掲示によるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

臨床情報の利用停止のほか、この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、「⑤ お問い合わせ先」へご連絡ください。

研究名：退院支援の質向上を目指した地域での先駆的な看護連携システムの開発と検証

研究実施期間：倫理審査委員会承認日 ～ 西暦2023年3月31日

山形大学医学部倫理審査委員会承認番号：2021-105号

（承認日 西暦2021年6月4日）

#### ① 対象となる患者さん（研究の目的、臨床情報の利用目的及び利用方法）

住み慣れた地域で最後まで暮らすために、「時々入院、ほぼ在宅」ともいわれる地域包括ケアシステムの構築が進められています。必要な治療を受けるために入院し、治療後はすみやかに自宅に帰ることができる仕組みづくりに向けて当病院では退院支援に力を入れています。退院支援では看護職の活躍が期待されていますが、病棟勤務の中で退院支援を行うことに困難や負担感を感じる看護職は少なくありません。また、在宅のイメージが持てず、自信をもって支援できないことも課題となっています。

本研究では、病棟看護師がICTを活用して訪問看護との連携を病棟に居ながらにして体験できる新たなシステム構築と効果の検証を目指しています。皆様には当院で治療後、退院までに病棟看護師から受けた支援が自宅に帰ってから役立ったかどうか、ご自宅で訪問看護を受けている際に病棟に向けて中継する形でメッセージをお伝えいただくこととアンケートに回答いただく形でご協力をお願いします。皆様のご協力を得て、病棟看護師が在宅療養に対する知識を増やすことで退院支援がより良いものとなることを期待しています。

#### ② 利用する臨床情報

患者さん個人が特定できる情報は研究には利用しません。また、研究データ上にも残りませんので、本研究から患者さんの個人情報が出ることはありません。なお、研究の成果を公表するときにおいても個人情報が漏出することはありませんので、患者さんに危

陰や不利益が生じることはありません。

③ 誰が使用するか(研究実施施設及び責任者(利用する者の範囲、臨床情報の管理責任者))

研究実施機関の名称：山形大学大学院医学系研究科看護学専攻

研究責任者：齋藤 貴史 教授

利用する者の範囲

氏名：進藤 真由美

所属機関：山形大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程 職名：大学院生

④ 研究への利用をやめてほしい場合

患者さんはいつでも、この研究にあなた自身の臨床情報を使用しないよう求めることができます。臨床情報の使用を認めなかったとしても、患者さんに不利益が生じることはありません。申し出をされる場合は本人又は代理人の方より、下記の連絡先までお問い合わせください。

ただし、使用停止を求めた時点で、研究結果が論文などで公開されていた場合には、完全に臨床情報の使用を停止できないことがあります。

⑤ 問い合わせ先

臨床情報利用の停止、そのほか質問したいことなどがありましたら、下記の担当者までご連絡ください。

山形大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程 在籍

信州大学医学部保健学科看護学専攻

〒390-0315 長野県松本市旭 3-1-1

連絡先：TEL/FAX 0263-37-2375

E-mail：sndmym@shinshu-u.ac.jp

担当者：進藤 真由美